

27PW-am239

地域医療活動としての保険薬局の「かかりつけ薬局」化の進捗状況
大津 友美子¹, 海保 房夫¹, ○鈴木 潤三¹(¹東京理大薬)

【目的】地域社会の中での薬局薬剤師は臨床医療の分野だけでなく、保健、介護、環境などを含む予防医療の分野にも貢献することが期待されている。当研究室では平成10年に、在宅医療、地域環境、保健衛生に対する取り組みの地域差とその影響要因を探ることを目的に、首都圏を初めとする4地域における「かかりつけ薬局」化の状況についてアンケート調査を実施した。本格的な高齢化社会を迎え、益々重要になってきている地域住民への予防医療活動としての「かかりつけ薬局」化が、その後どの程度進捗したかを明らかにすることを目的に、前回と同様のアンケート調査を実施した。

【方法】前回のアンケート調査に協力して頂いた東京都北多摩支部(143件)、港区(132件)、長野県上田市(85件)、鹿児島県始良郡(92件)の各薬剤師会に所属する薬局にアンケート用紙を送付した。アンケートの質問項目は薬局の規模と特徴(9項目)、患者への情報提供および患者情報の収集(9項目)、薬局の利便性(4項目)、在宅医療(12項目)、在宅介護保険制度に対する取り組み(2項目)、環境衛生や保健衛生に関する取り組み(7項目)とした。

【結果】アンケートの回収率は北多摩支部：50.3%、港区：42.4%、上田：72.9%、始良郡：57.6%であった。処方箋集中度、お薬手帳の利用、24時間体制への対応、訪問薬剤管理指導の届出、環境・保健衛生への取り組みなど14項目を「かかりつけ薬局」化指数評価のための要素としたところ、指数が北多摩支部 \leq 港区 $<$ 始良郡 $<$ 上田市の順で高くなる地域特性には変わりがなかったが、いずれの地域でも「かかりつけ薬局」化指数は9年前に比べて上昇していた。特に進捗が見られたのは薬剤情報提供書の発行、お薬手帳の利用、副作用モニターの実施などであった。